

# 嶋満神社便り

令和七年 八月号(第四十八号)  
発行 嶋満神社奉賛会

## 本年度例祭終了

奉賛会の皆様、本年度の例祭も去る八月二十四日無事終了することができました。拝殿内外の清掃、飾りつけなど、皆様のご協力に感謝申し上げます。また、たくさんのお供えも賜り、ありがとうございました。

## 社殿のない神社・・・

### 若狭町と東小浜の神社を巡る

福井県の小浜市東部から隣の若狭町にかけて境界のやや入り組んだ田園地帯。小浜線の駅でいえば東小浜から新平野(しんひらの)にかけての一带、人間の引いた町村の境界をあざ笑うかのように圧倒的存在感を見せる姿のいい山、野木山のふもとにその三つのお社は、鎮座されています。

### ○ 彌和神社：みわじんじや

山のふもとの一角に玉垣で三方を囲われた、たたみ一畳分ほどの聖域、玉砂利の奥には神籬(ひものぎ)という櫛を差した花活けが一つだけ。手前の石段と左右の石灯籠、石碑の分を併せても二坪ほどの部分が立派な神社です。御祭神は奈良の「大ニ輪神」



### ● 大物主神 (オオモノヌシノカミ)

(本誌第四十四号 令和六・五月 大神神社：おおみわじんじや...で)紹介)です。それなら本殿がないのも納得です。

### ○ 泉岡一言神社：いずみおかひつとんじや

野木山の南側、川に沿って徒歩で十五分ほどのところに、こちらは立派な鳥居と神宿る巨石、神馬などもある大きな神社ですが、やはり本殿はなく、社務所、舞殿などが斜面に沿って並びます。

一番奥の瑞垣で囲まれた数メートル四方の禁足地には、やはり玉砂利と神籬のみ。御祭神は奈良の「一言主神」。

由緒書きには神様が「祠は好まぬ」とお告げがあったので、千年以上、社殿を創建していない、と書かれています。

お願いごとを「一事」だけ祈り、「誰にも言わなければ叶う」とも書いてありました。

奈良県葛城の一言主神社はその名前から推測してもともとは神の言葉伝える巫女(みこ)あるいは巫覡(ふげき)かと言われていますが、こちらにお祀りされた経緯はわかりません。

ヤマト王権が確固たる地位を築く前の様子を色濃く映す「古事記」には、一言主神と雄略天皇が葛城山で出会われたとき、天皇の方が太刀、弓矢や衣服を献上された、とあります。当時は葛城氏の氏神様が天皇よりもずっと力を持っていたという歴史の一コマを見ることが出来ます。

### ○ 河原神社：かわはらじんじや

こちらは先の二社と違い、上野木(かみのぎ)の里に鎮座します。御祭神は「河原大神」とありますが、大正時代の遠敷郡誌には「祭神不詳也」とあるそうです。収穫への感謝を表す神事から察するに農耕の神様のようなあります。

鳥居の奥の禁足地と神籬は先の二社と同じですが、里に鎮座されているだけあってずっとゆつたりとした印象です。

以上の三社は背後の野木山を神奈備山(かんなびやま)神様の居られる山)としています。

社殿がなくて拝所から、はるかな山におられる神様を拝む、あるいは禁足地の神籬(ひものぎ)にその神様をお迎えして拝む形は神祭りの原点を残す珍しい形です。そのような神社が狭い地域に三社もあるというのは偶然なのかどうか、謎に惹かれて若狭の地をめぐるてきました。また勉強して何かわかれば皆様にお伝えしたいと思います。

